

クイック・スタート

TD-27
DRUM SOUND MODULE



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

📖 クイック・スタート (本書)

ドラムを叩く、練習するなど、TD-27の基本的な使いかたを説明しています。

📄 PDF マニュアル (Web からダウンロード)

• リファレンス・マニュアル

本書の内容に加え、ライブ演奏やレコーディング用の機能など、TD-27のすべての機能について説明しています。

• データ・リスト

TD-27のすべてのパラメーターとその設定方法を、説明しています。

• MIDI インプリメンテーション

MIDI機器と接続するときを使う、MIDIメッセージの詳細資料です。

📺 動画マニュアル

クイック・スタート・ビデオをご覧ください。

📄 PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。

<https://www.roland.com/jp/support/>



2. 製品名「TD-27」を入力して検索します。

3. 画面の表示に従って、ダウンロードします。

📺 動画マニュアルへのアクセス

<http://roland.cm/td-27qs>



本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」と「使用上のご注意」(『安全上のご注意』チラシと取扱説明書 (P.29))をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

主な仕様

ローランド TD-27：ドラム・サウンド・モジュール

ドラム・キット数	100 (プリセット：50 以上)
音色数	700 以上
ユーザー・サンプル	ユーザー・サンプル数：最大 500 (製品出荷時のユーザー・サンプルを含む) 音の長さ (合計)：モノ 24 分、ステレオ 12 分 取り込み可能なファイル形式：WAV (44.1kHz、16 / 24 ビット)
エフェクト	パッド・コンプレッサー (パッドごと) パッド・イコライザー (パッドごと) オーバーヘッド・マイク・シミュレーター ルーム/リバーブ マルチ・エフェクト：3 系統、30 種類 マスター・コンプレッサー マスター・イコライザー
Bluetooth	対応規格：Bluetooth 標準規格 Ver 4.2、対応プロファイル：A2DP (オーディオ)、GATT (MIDI over Bluetooth Low Energy)、対応コーデック：SBC (SCMS-T 方式によるコンテンツ保護に対応)
ソング・プレーヤー (SD カード)	ファイル形式：WAV (44.1kHz、16 / 24 ビット)、MP3 *1
レコーダー	レコーディング方法：リアルタイム、最大録音時間：60 分 (一時録音：3 分) *2 ファイル形式：WAV (44.1kHz、16 ビット)
ディスプレイ	グラフィック LCD 256 × 80 ドット
電源	AC アダプター (DC9V)
消費電流	770mA

外形寸法	238 (幅) × 204 (奥行) × 79 (高さ) mm
質量 (AC アダプターを除く)	1.1kg
付属品	クイック・スタート (保証書含む) 『安全上のご注意』 チラシ ユーザー登録カード 音源マウンティング・プレート 蝶ネジ (M5 × 10) × 2 AC アダプター 専用接続ケーブル
別売品	パッド：PD シリーズ、PDX シリーズ、BT シリーズ シンバル：CY シリーズ キック：KD シリーズ、KT シリーズ ハイハット：VH-13、VH-11、VH-10 ハイハット・コントロール・ペダル：FD シリーズ アコースティック・ドラム・トリガー：RT シリーズ フットスイッチ：BOSS FS-5U、FS-6 パーソナル・ドラム・モニター：PM シリーズ ノイズ・イーター：NE シリーズ

*1：オーディオ・ファイルは、SD カードに保存されている必要があります。

*2：録音には、SD カードが必要です。SD カードがない場合、約 3 分間の一時録音が可能ですが、本体への保存はできません。

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

目次

各部の名称とはたらき	4
周辺機器を接続する	6
リア・パネル	6
サイド・パネル	7
準備する	8
スタンドに取り付ける	8
電源を入れる／切る	8
電源を入れる	8
電源を切る	8
ハイハットの設定をする	9
VH-10 / VH-11 の設定をする	9
VH-13 の設定をする	9
奏法について	10
スネア／タム	10
ハイハット	11
シンバル	11
ドラム・キットを選ぶ	12
「ドラム・キット」と「インスト」とは?	12
ドラム・キットを選ぶ	12
曲に合わせて演奏する	13
スマートフォンの曲に合わせて演奏する	13
MIX IN 端子にケーブルを接続する場合	13
Bluetooth で無線接続する場合	13
ソングに合わせて演奏する	14
練習する	15
クリック（メトロノーム）を鳴らす	15
クリックをオン／オフする	15
コーチ・モードで練習する	15
ビートに合わせて正確に叩く（TIME CHECK）	15
身体でテンポを覚える（QUIET COUNT）	16
ウォーム・アップ（WARM UPS）	17
録音する	18
演奏を録音する	18
ソングと一緒に演奏を録音する	18
パソコンに接続して録音する	19
USB ドライバーをインストールする	19

ドラム・キットをエディットする	20
サウンド・モディファイつまみでエディットする	20
[KIT EDIT] ボタンでエディットする	21
オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす （USER SAMPLE）	22
オーディオ・ファイルを取り込む	22
ユーザー・サンプルをインストに割り当てる／鳴らす	23
各種設定をする（SYSTEM）	24
SYSTEM の基本操作	24
SD カードを初期化する	24
データをバックアップする	25
SD カードにバックアップする	25
バックアップ・データを SD カードから読み込む （LOAD）	25
AUTO OFF 機能の設定をする	26
工場出荷時の設定に戻す	26
故障かな?と思ったら	27
安全上のご注意	29
使用上のご注意	30

各部の名称とはたらき

ディスプレイ

操作に応じて、さまざまな情報を表示します。

電源を入れてしばらくすると、DRUM KIT 画面（基本画面）が表示されます。

→ 「ドラム・キットを選ぶ」 (P.12)

ファンクション・ボタン ([F1] ~ [F5])

画面の表示によって機能の変わるボタンです。機能は画面下部に表示されます。

[●] ボタン

演奏を録音します。

→ 「録音する」 (P.18)

[▶/■] ボタン

内蔵曲や録音した演奏データの再生／停止や、録音の開始／停止をします。

→ 「曲に合わせて演奏する」 (P.13)

→ 「録音する」 (P.18)

[SONG] ボタン

デモ演奏やバックイング（伴奏）用の曲の再生など、ソングに関する設定をします。

→ 「ソングに合わせて演奏する」 (P.14)

[CLICK] ボタン

クリック（メトロノーム）を鳴らしたり、テンポや拍子などの設定をしたりします。

→ 「クリック（メトロノーム）を鳴らす」 (P.15)

[COACH] ボタン

コーチ・メニューで、演奏レベルに合わせたドラム練習ができます。

→ 「コーチ・モードで練習する」 (P.15)

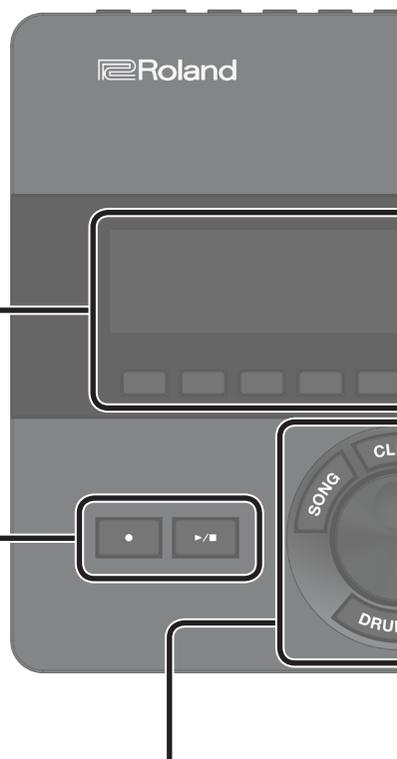
[DRUM KIT] ボタン

ドラム・セットの音（ドラム・キット）を選ぶ、基本画面を表示します。また、他の画面から基本画面に戻る時に押します。

→ 「ドラム・キットを選ぶ」 (P.12)

ダイヤル

DRUM KIT 画面（基本画面）で、ダイヤルを回してドラム・セットの音（ドラム・キット）を選びます。また、カーソル・ボタンで選んだパラメーターの値を変えます。



[BACKING] つまみ

内蔵曲やフリック（メトロノーム）、MIX IN 端子や Bluetooth で接続したスマートフォンの音量を調節します。

- 「曲に合わせて演奏する」 (P.13)
- 「フリック（メトロノーム）を鳴らす」 (P.15)

[PHONES] つまみ

PHONES 端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

[MASTER] つまみ

MASTER OUT 端子に接続したアンプ内蔵スピーカーなどの音量を、調節します。

サウンド・モディファイつまみ

([INSTRUMENT]、[LEVEL]、[TUNING]、[MUFFLING])

パッドの音色（インスト）を選んだり、選んだインストの音量（レベル）や音の高さ（チューニング）、余韻の長さ（マフリング）を調節したりします。

- 「ドラム・キットをエディットする」 (P.20)

Bluetooth インジケータ

インジケータの表示で Bluetooth の接続状況を確認できます。

スマートフォンなどと無線接続して、スマートフォンに入っている曲を再生しながらドラム演奏することができます。

消灯	Bluetooth 未接続
点滅	ペアリング中
点灯	Bluetooth 接続済み ※接続時/切断時に、数回高速点滅します。

- 「スマートフォンの曲に合わせて演奏する」 (P.13)
- 「ソングと一緒に演奏を録音する」 (P.18)

※ スマートフォンのアプリとつないで使う場合は、インジケータの表示が異なります。詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

[KIT EDIT] ボタン

ヘッドの種類やシェルの深さなど、ドラム自体のカスタマイズから残響の調節まで、幅広い音作りができます。

- 「ドラム・キットをエディットする」 (P.20)

[USER SAMPLE] ボタン

パソコンで作成したオーディオ・ファイルの本機に取り込み、インストとして鳴らすことができます。

- 「オーディオ・ファイルを取り込む/鳴らす (USER SAMPLE)」 (P.22)

[SYSTEM] ボタン

TD-27 のシステム設定をします。

- 「各種設定をする (SYSTEM)」 (P.24)

[EXIT] ボタン

操作をキャンセルします。または、前の画面に戻ります。

カーソル・ボタン ([<] [>] [^] [v])

画面上的カーソルを上下左右に移動させ、パラメーターを選びます。

[ENTER] ボタン

操作や値を決定します。または、次の画面に進みます。

また、[ENTER] ボタンを押しながら [SYSTEM] ボタンを押すと、設定するパッドが切り替わらないようにできます (Trig Lock 機能)。

周辺機器を接続する

リア・パネル

[POWER] スイッチ

電源をオン/オフします。

- 「電源を入れる/切る」(P.8)

MIDI 端子 (IN, OUT/THRU)

外部音源などの MIDI 機器と接続します。接続には、MIDI ケーブル (市販) を使います。

- 『リファレンス・マニュアル』(PDF)



MIX IN 端子

オーディオ・プレーヤーやスマートフォンなどを接続します。スマートフォンに保存されている曲に合わせて演奏したり、録音したりすることができます。

- 「スマートフォンの曲に合わせて演奏する」(P.13)
- 「ソングと一緒に演奏を録音する」(P.18)



DIRECT OUT 端子 (1、2)

ミキサーなどを接続します。

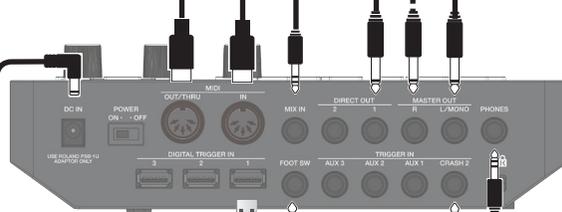
- 『リファレンス・マニュアル』(PDF)



DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

※AC アダプターのコードは、底面のコード・フックを使って図のように固定してください。



MASTER OUTPUT 端子 (L/MONO、R)

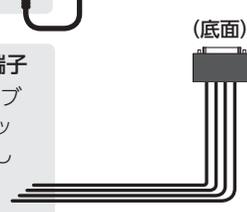
アンプ内蔵スピーカー (別売) などを接続します。

※モノで出力するときは、L/MONO 端子のみに接続します。



TRIGGER INPUT 端子

付属の専用接続ケーブルを取り付けて、パッド類やペダルを接続します。



DIGITAL TRIGGER IN 端子 (1、2、3)

デジタル接続対応のパッド (PD-140DS、CY-18DR など) を接続します。

- 「デジタル接続対応パッドの設定」(P.7)



FOOT SW 端子

フットスイッチ (別売: BOSS FS-5U、FS-6) を接続します。ペダル操作でドラム・キットを呼び出すなど、さまざまなコントロールができます。

- 『リファレンス・マニュアル』(PDF)



TRIGGER IN 端子 (CRASH 2、AUX 1 ~ AUX 3)

CRASH 2 に、クラッシュ・シンバルを接続します。AUX1 ~ AUX3 は、パッド類を増設するときに使います。



PHONES 端子

ヘッドホン (別売) を接続します。

※ヘッドホンを接続しても、MASTER OUTPUT 端子に接続したアンプ内蔵スピーカーからは音が出ます。



※他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞りと、すべての機器の電源を切ってください。

サイド・パネル

SD カード・スロット

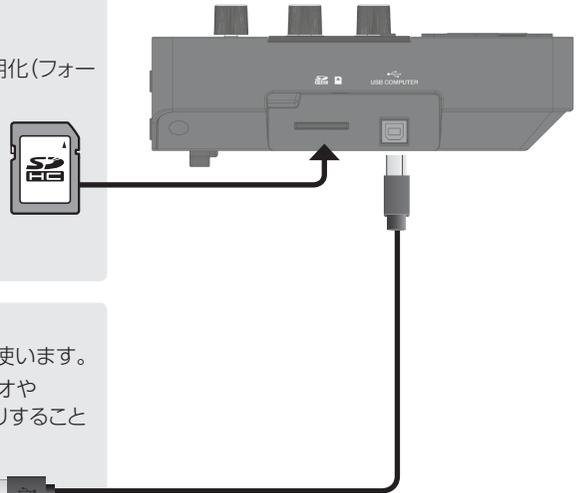
市販の SD カード (SDHC カード (32GB) まで対応) を挿入します。SD カードには、バックアップ (伴奏) 用の曲や本機の設定を保存することができます。また、ユーザー・サンプルの取り込みや、録音した演奏データの保存などにも使います。

- 「SD カードを初期化する」 (P.24)
- 「ソングに合わせて演奏する」 (P.14)
- 「録音する」 (P.18)
- 「オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす (USER SAMPLE)」 (P.22)
- 「データをバックアップする」 (P.25)

※ 初めて SD カードを使うときは、必ず本機で SD カードを初期化 (フォーマット) してください (P.24)。

※ 画面に 「Processing...」 「Now Saving...」 と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。故障の原因となります。

※ SD カードのメーカーや種類によっては、本機で正しく録音や再生ができないことがあります。



USB COMPUTER 端子

パソコンと接続します。接続には、USB ケーブル (市販) を使います。DAW ソフトウェア (市販) を使って、本機の演奏をオーディオや MIDI で録音したり、パソコンで再生した音を本機で鳴らしたりすることができます。

- 「リファレンス・マニュアル」 (PDF)



デジタル接続対応パッドの設定

デジタル接続対応のパッドを DIGITAL TRIGGER IN 端子に初めて接続すると、以下の画面が表示されます。画面に従って、接続したパッドをどのトリガー・インプットに割り当てるか設定します。

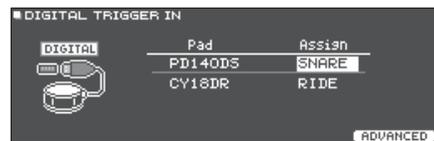
※ 専用接続ケーブルや TRIGGER IN 端子につないだパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER INPUT 端子と TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。



参照

詳しくは、『リファレンス・マニュアル』 (PDF) をご覧ください。

1. カーソル・ボタンで 「OK」 を選び、[ENTER] ボタンを押します。



2. カーソル・ボタンで設定するパッドを選び、ダイヤルでアサインを設定します。

※ 同じアサインを複数設定することはできません。

設定例

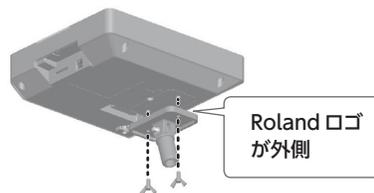
Pad (パッド)	Assign (アサイン)
PD140DS	SNARE
CY18DR	RIDE

3. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

準備する

スタンドに取り付ける

付属の音源マウンティング・プレートを使って、本機をドラム・スタンド（別売：MDS シリーズなど）に取り付けます。付属の蝶ネジを使って、図のように取り付けます。



- ※ 付属の蝶ネジ以外は使わないでください。故障の原因になります。
- ※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

メモ

シンバル・スタンドなどに本機を取り付ける場合は、オール・パーパス・クランプ（別売：APC-33）を使って音源マウンティング・プレートを固定してください。取り付け可能なパイプの直径は、10.5 ~ 28.6mm です。

電源を入れる／切る

- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

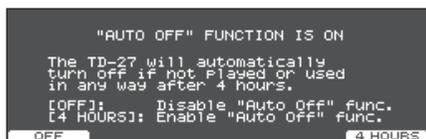
電源を入れる

1. 本機にヘッドホン（別売）、またはアンプ内蔵スピーカー（別売）を接続します。

- ※ アンプ内蔵スピーカーを接続した場合は、アンプ内蔵スピーカーの音量を最小にします。

2. 本機リア・パネルの [POWER] スイッチを、ON にします。

電源を入れると、以下の画面が表示されます。



この画面では、一定時間経過すると電源が自動的に切れるようにするかを設定できます（AUTO OFF 機能）。

ボタン	説明
[F1] (OFF)	電源は自動的に切れません。
[F5] (4 HOURS)	4 時間以内にパッドを叩かなかつたり何も操作をしなかつたりすると、電源が自動的に切れます。

- ※ AUTO OFF 機能を「OFF」に設定していると、この画面は表示されません。
- ※ 本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください（P.26）。
電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

3. アンプ内蔵スピーカーを接続した場合は、アンプ内蔵スピーカーの電源を入れます。

4. ヘッドホンの音量は [PHONES] つまみで、アンプ内蔵スピーカーの音量は [MASTER] つまみで調節します。

電源を切る

注意

本機で変更した値は、電源を切るときに保存されます。必ず [POWER] スイッチを OFF にして、電源を切るようにしてください。

1. 本機にアンプ内蔵スピーカーを接続した場合は、アンプ内蔵スピーカーの音量を最小にして電源を切ります。

2. 本機の [POWER] スイッチを、OFF にします。

[Please wait. Now saving...] と表示され、設定が保存されると電源が切れます。

ハイハットの設定をする

ハイハット (VH-10 / VH-11 または VH-13) を使うときは、本機でオフセットの調整をします。ハイハットのオープン、クローズやペダルの動きを、正しく検出するために必要な設定です。

→ ハイハットの感度などを微調整する場合は、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

VH-10 / VH-11 の設定をする

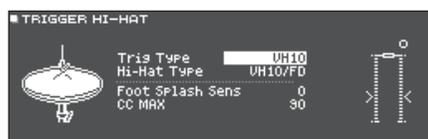
1. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、本機の電源を入れます。



2. VH-10 のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。

3. [SYSTEM] ボタンを押します。
4. カーソル・ボタンで「TRIGGER」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
5. カーソル・ボタンで「HI-HAT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

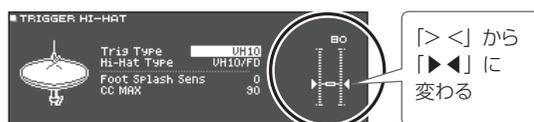
TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。



6. ダイヤルで、Trig Type を「VH10」に設定します。

7. 画面右側に表示される オフセットメーターを見ながら、調整ネジを回して調整します。

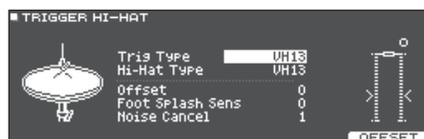
メーターに ▶ ◀ マークが表示されるように調整します。



8. 叩いたときにハイハットが自然にゆるめる位置で、クラッチ・スクリューをとめます。
9. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

VH-13 の設定をする

1. [SYSTEM] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「TRIGGER」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「HI-HAT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。



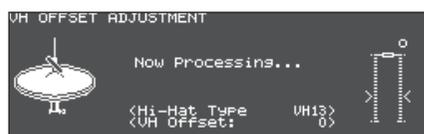
4. ダイヤルで、Trig Type を「VH13」に設定します。
5. [F5] (OFFSET) ボタンを押します。
VH OFFSET ADJUSTMENT 画面が表示されます。



6. VH-13 のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットを閉じた状態にします。

※ ハイハット本体やペダルには触らないでください。

7. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。



約 3 秒でオフセットが自動的に調整されます。

8. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

奏法について

本機は、アコースティック・ドラムと同様にさまざまな奏法で演奏することができます。

注意

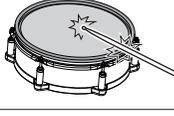
- スティックは、木製や樹脂製をお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。
- ブラシは、ナイロン製をお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷つけたりすることがあります。

スネア/タム

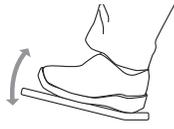
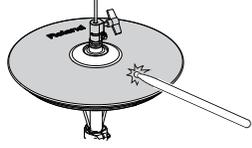
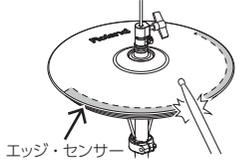
奏法		説明
ヘッド・ショット	 <p>打点位置による音色変化</p>	ヘッドを叩きます。 特定のスネア音色では、ヘッドの中心から外周部にかけて叩いた位置の違いによる自然な音色変化が得られます。
リム・ショット		ヘッドとリムを同時に叩きます。 ヘッド・ショット時とは異なる音色（リム音色）が鳴ります。
クロス・スティック奏法		ヘッドに手を置きながらリムを叩きます。 スネア音色では、リム・ショット奏法時にはリム音色、クロス・スティック奏法時にはクロス・スティック音色というように、各奏法に対応した音色を鳴らし分けることができます。 リム・ショット奏法に対応するパッドを専用接続ケーブルの「SN」に接続するか、クロス・スティック奏法が可能なデジタル接続対応のパッド（PD-140DS など）を接続して、スネアに割り当てます。 ※ PD-140DS 以外は、ヘッドに触れないようにリムのみを叩きます。 ※ 一部のスネア音色では、音色の鳴らし分けができない場合があります。
ブラシ奏法		ブラシでこする表現（ブラシ・スイープ奏法）ができます。 専用接続ケーブルの「SN」にメッシュ・ヘッドのパッドを接続するか、ブラシ奏法が可能なデジタル接続対応のパッド（PD-140DS など）を接続して、スネアに割り当てます。 さらに、ブラシ演奏に対応したインストをスネアのヘッドに割り当て、Brush Switch を「ON」にします。 → 詳しくは、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

リム・ショットのニュアンスによる音色変化

特定のスネア音色やタム音色では、リム・ショットの微妙な叩きかたの違いによって音色のニュアンスが変化します。

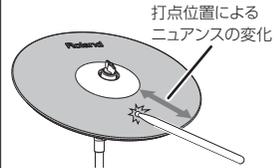
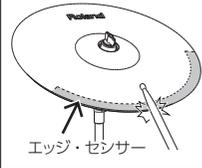
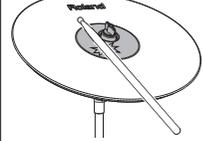
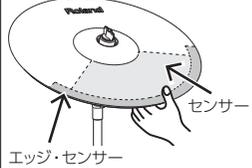
奏法		説明
通常のリム・ショット (オープン・リム・ショット)		ヘッド中心とリムを同時に叩きます。
浅いリム・ショット (シャロウ・リム・ショット)		ヘッドのリムに近い部分とリムを同時に叩きます。

ハイハット

奏法		説明
オープン／クローズ		ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまでハイハットの音色が滑らかに変化します。 ペダルを踏み込んで鳴らすフット・クローズや、ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らすフット・スプラッシュも可能です。音色によっては、クローズの状態で叩いて瞬時にオープンしたときの音色変化も表現できます。
プレッシャー (VH-13)		クローズ状態からさらにペダルを踏み込んでハイハットを叩くと、踏み込む強さに応じて変化したクローズの音色を鳴らすことができます。 ※VH-10、VH-11、FD-9、FD-8はプレッシャーに対応していません。
ボウ・ショット		トップ・ハイハットの打面を叩く奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。
エッジ・ショット		トップ・ハイハットのエッジ（端）をスティックのショルダーで叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。 ※エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。

※トップ・ハイハットの裏側やボトム・ハイハットは叩かないでください。故障の原因になります。

シンバル

奏法		説明
ボウ・ショット		シンバルの打面を叩く最も一般的な奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッドの音色が鳴ります。 特定のライド音色では、ボウ部の打点位置に応じて音色のニュアンスが変化します。
エッジ・ショット		シンバルのエッジ（端）をスティックのショルダーで叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリムの音色が鳴ります。
ベル・ショット		ベルを叩く奏法です。ベルが叩かれたときにベルの音色が鳴ります。 専用接続ケーブルの「RD」と「RDB」にライド・3ウェイ・トリガーに対応したパッドを接続するか、ベル・ショット奏法が可能なデジタル接続対応のパッド（CY-18DRなど）を接続して、ライドに割り当てます。
チョーク奏法		シンバルを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります。 CY-18DRは、センサーに手を置いてても音が止まります。 チョーク状態で叩くと、音が短く鳴ります。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

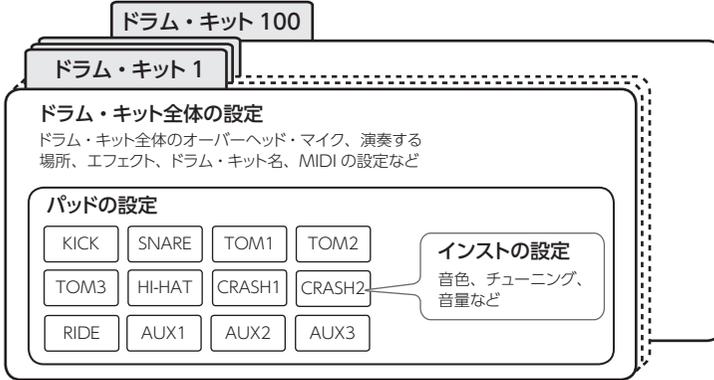
Nederlands

ドラム・キットを選ぶ

「ドラム・キット」と「インスト」とは？

本機では、ドラム・セットのことを「ドラム・キット」と呼びます。また、ドラム・キットの各パッドを叩いたときに鳴る音色を「インスト」と呼びます。

ドラム・キットの構成は、以下のようになっています。

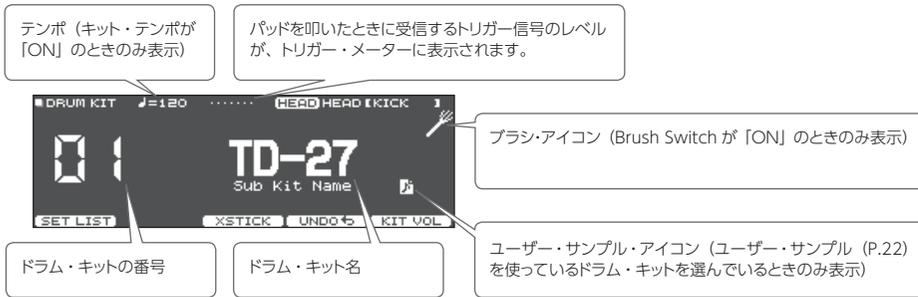


ドラム・キットを選ぶ

本機では、さまざまな音楽ジャンルに対応するドラム・キットで演奏を楽しむことができます。

1. [DRUM KIT] ボタンを押します。

DRUM KIT 画面が表示されます。この画面には、設定により以下の内容が表示されます。



2. ダイヤルで、ドラム・キットを選びます。

参照

ドラム・キット・リストについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

クロス・スティック奏法を使う

TRIGGER INPUT 端子に接続したパッドの場合

[F3] (XSTICK) ボタンを押すたびに、スネアのパッドでクロス・スティック音 (P.10) を鳴らす／鳴らさないの切り替えができます。



クロス・スティック奏法に対応した、デジタル接続対応のパッド (PD-140DS など) の場合

DIGITAL TRIGGER IN 画面でアサインにスネアに割り当てると (P.7)、常時クロス・スティック奏法が可能になります。

このとき、画面に XSTICK アイコンは表示されません。

曲に合わせて演奏する

スマートフォンなどのモバイル機器（以下「スマートフォン」と呼びます）に入っている曲や本機で再生できるソングに合わせて、ドラム演奏を楽しむことができます。

スマートフォンの曲に合わせて演奏する

MIX IN 端子にケーブルを接続する場合

1. スマートフォンとステレオ・ミニプラグ・ケーブル（市販）をつなぎ、本機の MIX IN 端子に接続します（P.6）。
2. スマートフォンの曲を再生します。
3. [BACKING] つまみを回して、曲の音量を調節します。

Bluetooth で無線接続する場合

スマートフォンと本機を Bluetooth で無線接続するには、スマートフォンに本機を登録する（お互いを認証する）ための「ペアリング」が必要です。



ここでは、例として iPhone を使った設定方法を紹介します。

※ 本機とのペアリングが済んだスマートフォンは、再度ペアリングする必要はありません。「ペアリング済みのスマートフォンを接続する」（P.13）の手順をご覧ください。

スマートフォンを登録する（ペアリング）

1. 接続したいスマートフォンを、本機周辺に置きます。
2. [SYSTEM] ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンを [BLUETOOTH] に合わせ、[ENTER] ボタンを押します。
4. [F1] (PAIRING) ボタンを押します。



メモ

ペアリングをやめる場合は、[F1] (CANCEL) ボタンまたは [EXIT] ボタンを押します。

5. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。



6. スマートフォンの Bluetooth 「デバイス」 欄に表示される「TD-27 AUDIO」をタップします。

本機とスマートフォンがペアリングされます。ペアリングが完了すると、以下のように表示されます。

スマートフォン	「自分のデバイス」欄に「TD-27 AUDIO」が追加され、「接続済み」と表示される
TD-27	「Connected (AUDIO)」と表示される

7. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

ペアリング済みのスマートフォンを接続する

1. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。

スマートフォンと本機が無線でつながります。

※ 上記の操作で接続ができなかった場合は、スマートフォンの「デバイス」欄に表示されている「TD-27 AUDIO」をタップしてください。

スマートフォンの曲を再生する

スマートフォンで曲を再生すると、本機に接続したヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーから音が鳴ります。

曲の音量は、本機の [BACKING] つまみ、またはスマートフォン側で調節してください。

メモ

スマートフォンで再生した曲は、本機の演奏音と一緒に録音することができます（P.18）。

曲に合わせて演奏する

ソングに合わせて演奏する

本機の内蔵曲や SD カードに保存されたオーディオ・ファイル、SD カードに録音した演奏データなど、本機で再生できる曲の総称を「ソング」と呼びます。

ソングの種類	説明
内蔵曲 (INTERNAL)	本機に内蔵されているデモ演奏 (MIDI データ) とバックアップ用の曲 (オーディオ・データ)
SD カードに保存された曲 (SD CARD)	バックアップ用に SD カードに保存したオーディオ・ファイル (WAV / MP3)
SD カードに録音した曲 (REC DATA)	本機での演奏を SD カードに保存 (エクスポート) したデータ (オーディオ・データ)

1. [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。



2. ダイヤルで、ソングを選びます。

[F1] ボタンを押すたびに、内蔵曲 (INTERNAL) / SDカードのオーディオ・ファイル (SD CARD) / SDカードに録音 (エクスポート) した曲 (REC DATA) を切り替えることができます。

3. [▶/■] ボタンを押します。

選んだソングが再生されます。

再生中の操作

[▶/■] ボタン	ソングの再生 / 停止
[>] [<] ボタン	ソングの早送り [>] / 早戻し [<]
[H] ボタン	曲の先頭に戻る
[V] ボタンでカーソルを「SPEED」に合わせ、ダイヤル	ソングの再生スピードを早くする (右回し) / 遅くする (左回し)
[F4] (A-B) ボタン	ループ再生 / 通常再生 / A-B リピート (*1) を順番に切り替えます。

*1 : A と B の区間を設定し、繰り返し再生します。

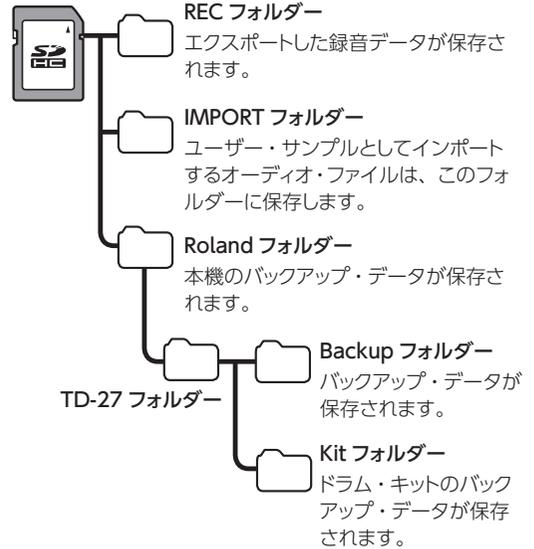
A-B リピートの設定

- [F4] (A-B) ボタンを押して通常再生にし、曲を再生する。
- リピート開始位置で [F4] (A-B) ボタンを押す (A の設定)。
- リピート終了位置で [F4] (A-B) ボタンを押す (B の設定)。

参照

内蔵曲リストについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

SD カードのフォルダー構成



パソコンから SD カードにオーディオ・ファイルを保存するときは

SD カードのトップ・ディレクトリー (一番上の階層) に保存したオーディオ・ファイルを再生することができます。

※ 1 つのフォルダーに保存するファイルは 200 個以内にしてください。

※ ソングの長さは、1 ファイルが 1 時間以内になるようにしてください。

参照

詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

本機で再生できるオーディオ・ファイル

	WAV ファイル	MP3 ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)	MP3 (.mp3)
サンプリング周波数	44.1kHz	44.1kHz
ビット数	16, 24 ビット	64kbps ~ 320kbps

※ 16 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

練習する

クリック (メトロノーム) を鳴らす

クリックを鳴らして、一定のテンポで叩く練習ができます。

クリックをオン/オフする

1. [CLICK] ボタンを押します。

CLICK 画面が表示されます。



2. [F1] ボタンを押します。

クリックが鳴ります。

[BACKING] つまみでクリックの音量を調節できます。

3. もう一度、[F1] ボタンを押します。

クリックが止まります。

メモ

- [ENTER] ボタンを押しながら [CLICK] ボタンを押して、クリックをオン/オフすることもできます。
- ヘッドホンだけにクリックを出力することもできます。詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

テンポを変更する

1. CLICK 画面 (TEMPO タブ) で [Tempo] にカーソルを合わせ、ダイヤルを回して設定します。

拍子を変更する

1. CLICK 画面 (TEMPO タブ) で、カーソル・ボタンを使って Beat を選びます。
2. ダイヤルで、Beat を設定します。
3. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

参照

クリックに関するその他の設定については、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

コーチ・モードで練習する

本機には、練習効果を最大限に引き出す「コーチ・モード」を搭載しています。

3つのメニュー「TIME CHECK」、「QUIET COUNT」、「WARM UPS」があり、スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えることができます。また、演奏レベルに合わせた設定に変更することもできます。

練習メニューを選ぶ

1. [COACH] ボタンを押します。

COACH MENU 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンで練習メニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。

ビートに合わせて正確に叩く (TIME CHECK)

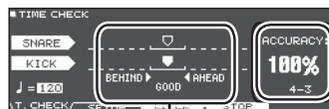
クリックに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習です。

1. TIME CHECK 画面で、[F5] (START) ボタンを押して開始します。

メモ

練習を途中で終了するときは、[F4] (STOP) ボタンを押します。

2. クリックに合わせてパッドを叩きます。



正確なタイミングで叩いた割合が「%」で表示されます。

パッドを叩いたタイミングがクリックに合っているかどうかを、画面に表示します。

BEHIND: 遅い
AHEAD: 早い

打撃タイミングが評価されます。



再び練習するときは、[F5] (RETRY) ボタンを押します。

3. [EXIT] ボタンを押して、終了します。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

TIME CHECK の設定

TIME CHECK 画面で [F2] (SETUP) ボタンを押すと、評価するパッドや、採点する小節数などを変更することができます。



パラメーター	設定値	説明
Score		採点の結果を、画面に表示させるかどうかを設定します。
	OFF	採点しません。タイミングのチェックだけをします。
	ON (4、8、16、32 meas)	採点の結果を画面に表示します。また、採点までの間に練習する小節数を指定します。
Grade		採点基準を設定します。
	EASY / HARD	標準 / より厳しくタイミングをチェックします。
Display 1 / Display 2		画面にタイミング・グラフを表示するパッドを選びます。
Gauge	LEFT BEHIND	タイミング・グラフの左が BEHIND (遅い) で表示されます。
	LEFT AHEAD	タイミング・グラフの左が AHEAD (早い) で表示されます。

※ [F3] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.15) をすることができます。

身体でテンポを覚える (QUIET COUNT)

身体でテンポを覚えるための練習です。最初の数小節は設定された音量でクリックが鳴り、次の数小節はクリックは鳴りません。停止するまで、この数小節間隔のサイクルが続きます。

1. QUIET COUNT 画面で、[F5] (START) ボタンを押して開始します。

2. クリックのテンポに合わせて、パッドを叩きます。

- 最初の数小節はクリックが鳴ります。クリックが発音する最後の小節になると、画面に「Ready..」と表示されます。



- クリックが鳴り終わると、画面の表示が「Quiet」に変わります。この間もパッドを叩き続けます。



- Quiet の区間のあと、正確なテンポで叩いた割合が「%」で表示されます。



3. [F4] (STOP) ボタンを押して、停止します。

4. [EXIT] ボタンを押して、終了します。

QUIET COUNT の設定

QUIET COUNT 画面で [F2] (SETUP) ボタンを押すと設定画面が表示されます。



パラメーター	設定値	説明
Measures	2、4、8、16 (小節)	「クリック発音」と「Quiet」の繰り返し区間の長さ (小節) を設定します。
Quiet		Measures で設定した小節のうち、Quiet にする小節の長さを設定します。
	RANDOM	Quiet の区間が毎回ランダムに設定されます。
	1、2、4	設定した長さ (小節) が Quiet の区間に設定されます。 ※ Measures で設定した値の半分より大きい値を設定することはできません。

※ [F3] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.15) をすることができます。

ウォーム・アップ (WARM UPS)

このモードでは、ステップ 1～3 まで順番に練習し、各ステップでの演奏を採点して、総合評価をします。

軽めの練習からハードな練習まで、3つのコース (5 / 10 / 15 分) から選べます。また、演奏の上達度に合わせて、テンポの調節もできます。

メモ

WARM UPS をスタートさせたあとで [F5] (PAUSE) ボタンを押して、一時停止または再開させることができます。

また、一時停止中に [F4] (STOP) ボタンを押して、終了することもできます。

1. WARM UPS 画面で、[F5] (START) ボタンを押して、開始します。

ステップ 1 : Change-Up

リズム・タイプが 2 小節ごとに変化していきます。

2 分音符から始めて徐々に音符が細くなっていき、また 2 分音符まで戻るといったリズムの変化を繰り返します。



ステップ 2 : Auto Up/Down

テンポを徐々に上げ下げします。

テンポが 1 ずつ上がっていき、上限値になったらテンポが 1 ずつ下がって最初のテンポに戻ります。その後、同じ動作を繰り返します。



※ Auto Up/Down は、Duration が 10 MINS または 15 MINS のときに実行されます。

※ Auto Up/Down では、現在のテンポは変更できません。

※ 現在のテンポ設定値が、テンポ下限値になります。

ステップ 3 : Time Check

クリックに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習をします。パッドを叩いたタイミングが拍子に合っているか表示します。



総合評価

各ステップでの演奏を採点し、総合評価を表示します。再び練習するときは、[F5] (RETRY) ボタンを押します。



評価 (表示)

EXCELLENT! (最高)、VERY GOOD! (優秀)、GOOD (良)、AVERAGE (標準)、START OVER (やり直し)

2. [EXIT] ボタンを押して、終了します。

WARM UPS の設定

WARM UPS 画面で [F2] (SETUP) ボタンを押すと設定画面が表示されます。



パラメーター	設定値	説明
Duration	5 MINS	所要時間: 5 分 Change-Up: 2 分 Time Check: 3 分
	10 MINS	所要時間: 10 分 Change-Up: 3 分 Auto Up/Down: 3 分 Time Check: 4 分
	15 MINS	所要時間: 15 分 Change-Up: 5 分 Auto Up/Down: 5 分 Time Check: 5 分
Grade	EASY	採点基準を設定します。 標準
	HARD	より厳しくタイミングをチェックします。
Max Tempo		ステップ 2 : Auto Up/Down での、テンポの上限値を設定します。

※ [F3] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.15) をすることができます。

録音する

演奏を録音する

自分の演奏を簡単に録音して、再生することができます。

メモ

SDカード挿入時は最大約60分、SDカード未挿入時は約3分、録音することができます。SDカード未挿入時は、録音後に[F5] (PREVIEW) ボタンを押して再生できますが、本機に保存はできません。

録音する

※ 録音した曲をSDカードに保存 (エクスポート) する場合は、あらかじめSDカードを挿入しておきます (P.7)。

1. [●] ボタンを押します。

REC STANDBY 画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。



メモ

クリック (メトロノーム) に合わせて録音したいときは、ここでクリックを鳴らします (P.15)。

2. ダイヤルで、録音対象を選びます。

パラメーター	説明
ALL	すべての音を録音します (クリックとガイド・トラックを除く)。
DRUMS ONLY	ドラムの音のみを録音します。

3. [▶/■] ボタンを押して、録音を始めます。

4. もう一度 [▶/■] ボタンを押して、録音を終了します。

再生／保存する

5. [F5] (PREVIEW) ボタンを押します。

録音した演奏が再生されます。
SDカードに曲を保存しないで終了する場合は、[F1] (DELETE) ボタンを押して曲を削除します。

6. [F4] (EXPORT) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。

7. カーソル・ボタンで「OK」を選び [ENTER] ボタンを押します。

SDカードに曲が保存されます。

ソングと一緒に演奏を録音する

本機内蔵のバックিং (伴奏) 用の曲やSDカードに保存した曲と一緒に、演奏を録音することができます。

メモ

MIX IN 端子や Bluetooth で接続したスマートフォンの曲に合わせて録音するときは、スマートフォンの曲を再生しながら、「演奏を録音する」の手順で録音します。

曲を選んで録音する

1. [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。

2. ダイヤルで、一緒に録音するソングを選びます。

[F1] ボタンを押すたびに、内蔵曲 (INTERNAL) / SDカードのオーディオ・ファイル (SD CARD) / SDカードに録音 (エクスポート) した曲 (REC DATA) を切り替えることができます。

※ 内蔵曲のデモ演奏と一緒に録音することはできません。

3. [●] ボタンを押します。

REC STANDBY 画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。

4. ダイヤルで、録音対象「ALL」を選びます。

5. [F1] ボタンを押して、ダイヤルで「with SONG」を選びます。



6. [▶/■] ボタンを押して、録音を始めます。

録音の開始と同時に、曲が再生されます。

7. もう一度 [▶/■] ボタンを押して、録音を終了します。

再生／保存する

8. [F5] (PREVIEW) ボタンを押します。

録音した演奏が再生されます。
SDカードに曲を保存しないで終了する場合は、[F1] (DELETE) ボタンを押して曲を削除します。

9. [F4] (EXPORT) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。

10.カーソル・ボタンで「OK」を選び、[ENTER]ボタンを押します。

SDカードに曲が保存されます。

パソコンに接続して録音する

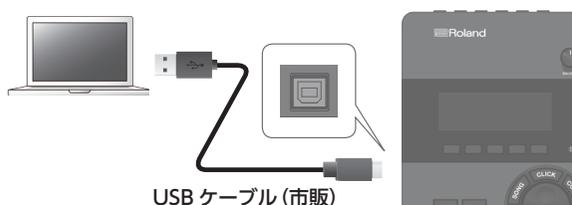
本機とパソコンと接続して、DAWソフトウェア（市販）へ28chのマルチトラックで演奏をオーディオ録音したり、MIDIで録音したりすることができます。

参照

詳しくは、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

USBドライバーをインストールする

USBドライバーは、パソコン上のDAWソフトウェアと本機との間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。USB AUDIOとして音声を送受信するには、USBドライバーのインストールが必要です。



USBケーブル（市販）

メモ

USBドライバーのダウンロードとインストール手順については、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

ドラム・キットをエディットする

本機では、ヘッドの種類やシェルの深さなどドラム自体のカスタマイズから残響の調節まで、幅広い音作りができます。直感的に操作したい場合はサウンド・モディファイつまみで、画面の値を見ながら緻密に設定したい場合は [KIT EDIT] ボタンからの操作でエディットできます。

※ 本機では、変更した値は自動的に保存されるため、設定を保存する操作は必要ありません。また、電源をオフにするときも設定が保存されます。

メモ

エディット中のドラム・キットを一時的に保存しておき、現在の設定と聴き比べながら、エディットすることができます (スナップショット機能)。詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

サウンド・モディファイつまみでエディットする

1. [DRUM KIT] ボタンを押します。
DRUM KIT 画面が表示されます。
2. ダイアルで、エディットするドラム・キットを選びます。
3. エディットするパッドを叩きます。
パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

メモ

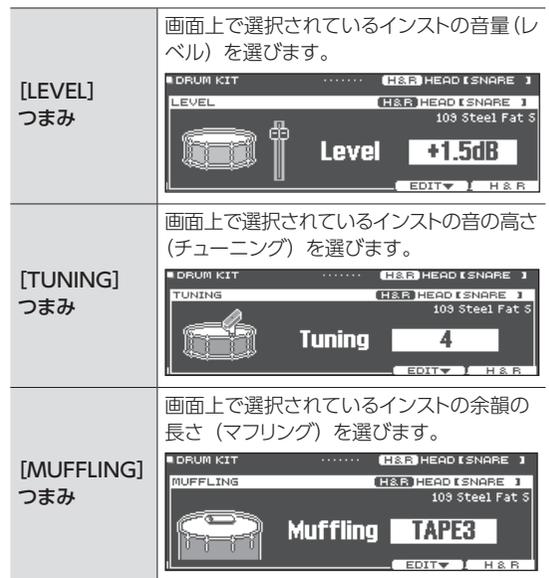
[ENTER] ボタンを押しながら [SYSTEM] ボタンを押すと、設定するパッドが切り替わらないようにできます (Trig Lock 機能)。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です。

4. [INSTURMENT] つまみで、インストを選びます。



→ インスト・リストについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

5. サウンド・モディファイつまみで、インストをエディットします。



メモ

一定時間操作しなかったり叩かなかったりすると、直前の画面に戻ります。

6. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

メモ

エディットしたドラム・キットの名前を変更したり、ドラム・キットごとに操作子の点灯色を変えたりすることができます。詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

[KIT EDIT] ボタンでエディットする

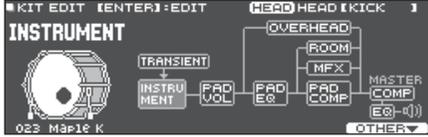
1. [DRUM KIT] ボタンを押します。

DRUM KIT 画面が表示されます。

2. ダイヤルで、エディットするドラム・キットを選びます。

3. [KIT EDIT] ボタンを押します。

KIT EDIT 画面が表示されます。



4. エディットするパッドを叩きます。

パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

メモ

[ENTER] ボタンを押しながら [SYSTEM] ボタンを押すと、設定するパッドが切り替わらないようにできます (Trig Lock 機能)。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です。

5. カーソル・ボタンでエディットするパラメーターを選び、[ENTER] ボタンを押します。

パラメーター	説明
TRANSIENT	インストのアタックやリリースを調節します (トランジェント)。
INSTRUMENT	インストの種類を変更します。
PAD VOL	パッドごとの音量を調節します。
PAD EQ	パッドごとの音質 (パッド・イコライザー) を調節します。
PAD COMP	パッドごとの音量変化 (パッド・コンプレッサー) を調節します。
OVERHEAD	ドラム・キット全体を収音する、オーバーヘッド・マイクの音を調節します。
ROOM	ドラムを演奏する場所の残響や鳴りかたを再現します。
MFX	最大 3 つのエフェクトを設定してドラム・キットに効果をかけることができます。
MASTER COMP	ドラム・キット全体の音量変化を調節します。
MASTER EQ	ドラム・キット全体の音質を調節します。

→ 詳しくは、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

メモ

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから本機に取り込み (P.22)、インストとして鳴らしたり、エディットしたりすることができます。

6. ダイヤルで、設定値を変更します。

7. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

参照

- [F5] (H&R) ボタンが表示されている画面では、ヘッドやリムなど、叩き分ける場所ごとにパラメーターを設定することができます。
- 2 つのインストを重ねて鳴らしたり、叩く強さに応じて切り替えたりできます (SUB INSTRUMENT)。

→ 詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす (USER SAMPLE)

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから本機に取り込み、インストとして鳴らすことができます(ユーザー・サンプル機能)。

ユーザー・サンプルは他のインストと同じように、音色を調節したりエフェクトをかけたりすることができます。

本機に取り込めるオーディオ・ファイル

	WAV ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)
サンプリング周波数	44.1kHz
ビット数	16、24ビット
時間	最大 180 秒

※ 16 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。
また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

オーディオ・ファイルを取り込む

オーディオ・ファイルをユーザー・サンプルとして、本機に取り込みます。

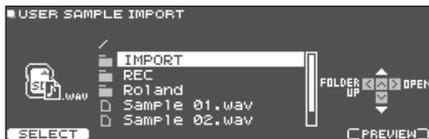
1. SD カードを本機に挿入します (P.7)。
2. [USER SAMPLE] ボタンを押します。

USER SAMPLE 画面が表示されます。



3. カーソルを「IMPORT」に合わせ、[ENTER] ボタンを押します。

USER SAMPLE IMPORT 画面が表示されます。



カーソル・ボタン	説明
[↑] ボタン	カーソルの移動 (上)
[↓] ボタン	カーソルの移動 (下)
[<] ボタン	フォルダーを抜ける
[>] ボタン	フォルダーに入る

メモ

[F5] (PREVIEW) ボタンを押すと、取り込む音を聞くことができます。

4. カーソル・ボタンでオーディオ・ファイルを選び、[F1] (SELECT) ボタンを押します。

USER SAMPLE IMPORT (DESTINATION) 画面が表示されます。



5. カーソル・ボタンでインポート先の番号を選び、[F5] (IMPORT) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



※ すでにデータがある番号を選ぶと、「User Sample Exists!」とメッセージが表示されます。データの無い番号を選んでください。

6. カーソル・ボタンで「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

ユーザー・サンプルをインストに割り当てる／鳴らす

1. [DRUM KIT] ボタンを押します。
DRUM KIT 画面が表示されます。
2. ダイアルで、エディットするドラム・キットを選びます。
3. [KIT EDIT] ボタンを押します。
KIT EDIT 画面が表示されます。
4. エディットするパッドを叩きます。
パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

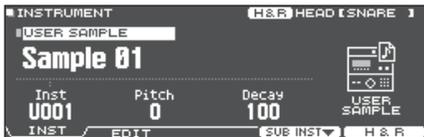
メモ

[ENTER] ボタンを押しながら [SYSTEM] ボタンを押すと、設定するパッドが切り替わらないようにできます (Trig Lock 機能)。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です。

5. カーソル・ボタンで「INSTRUMENT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。



6. インスト・グループにカーソルを合わせ、ダイアルで「USER SAMPLE」を選びます。



7. インスト番号にカーソルを合わせて、ダイアルで割り当てたいユーザー・サンプルを選びます。
8. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。
ユーザー・サンプルを割り当てたパッドを叩くと、ユーザー・サンプルが鳴ります。

メモ

- ユーザー・サンプルは、サウンド・モディファイつまみで選んだり、エディットしたりすることもできます。
- ユーザー・サンプルは、他のインストと同じように、音色を調節したり、エフェクトをかけたたりすることもできます。詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF)をご覧ください。

各種設定をする (SYSTEM)

SYSTEM の基本操作

本機の設定のバックアップや電源に関する設定など、本機全体で共通の設定を「システム」といいます。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。

SYSTEM 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンで設定したいメニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。

メニュー	説明	ページ
BLUETOOTH	Bluetooth の設定をします。	P.13
SD CARD	SD カードを初期化したり、SD カードに本機の設定のバックアップを取ったりすることができます。	P.24、P.25
TRIGGER	本機がパッドからの信号を確実に処理できるように、トリガーの設定をします。パッドの感度 (SENSITIVITY) などを調節することができます。	→ 『リファレンス・マニュアル』 (PDF)
OUTPUT	音の出力先を設定します。	
USB AUDIO	USB オーディオの設定をします。	
MIDI	本機の MIDI の設定をします。	
OPTION	MIX IN 端子、ディスプレイなどの設定をします。	
AUTO OFF	一定時間経過すると電源が自動的に切れるようにするかを設定します。	P.26
INFO	プログラムのバージョンなど、TD-27 本体に関する情報を示します。	→ 『リファレンス・マニュアル』 (PDF)
FACTORY RESET	工場出荷時の設定に戻します。	P.26

参照

各メニューの詳細については、『リファレンス・マニュアル』 (PDF) をご覧ください。

3. 選んだメニューに応じて、ダイヤルで設定を変更します。

4. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

SD カードを初期化する

SD カードを初期化 (フォーマット) します。

※ 初めて本機で SD カードを使うときは、SD カードをフォーマットしてください。

注意

SD カードを初期化すると、SD カード内のデータはすべて消去されます。

1. SD カードを本機に挿入します (P.7)。

2. [SYSTEM] ボタンを押します。

SYSTEM 画面が表示されます。

3. カーソル・ボタンで「SD CARD」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD MENU 画面が表示されます。

4. カーソル・ボタンで「FORMAT」を選び、[ENTER] ボタンを押します

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

5. カーソル・ボタンで「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードが初期化されます。

データをバックアップする

本機に記憶されているすべての設定を、SD カードに保存 (バックアップ) したり、本機に書き戻したり (ロード) することができます。

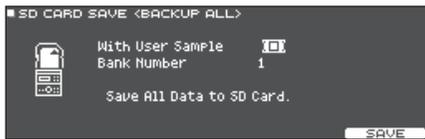
メモ

ドラム・キットごとにバックアップ/ロードすることもできます。詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

SD カードにバックアップする

本機に記憶されているすべての設定を保存します (最大 99 セット)。

1. SD カードを本機に挿入します (P.7)。
2. [SYSTEM] ボタンを押します。
SYSTEM 画面が表示されます。
3. カーソル・ボタンで [SD CARD] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SD CARD MENU 画面が表示されます。
4. カーソル・ボタンで [SAVE] を選び、[ENTER] ボタンを押します。



5. バックアップの設定をします。

パラメーター	説明
With User Sample	ユーザー・サンプルをバックアップするか選びます。
Bank Number	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、保存に数分かかることがあります。また、ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、ユーザー・サンプルを削除したりリナンバーしたりすると、バックアップを読み込んでもドラム・キットは正しく再現されません。

6. [F5] (SAVE) ボタンを押します。

メモ

バックアップ・データに名前を付けたいときは、[F4] (NAME) ボタンを押して、名前を付けます。

7. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは [CANCEL] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

8. カーソル・ボタンで [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードに設定が保存されます。

バックアップ・データをSDカードから読み込む (LOAD)

SD カードに保存したバックアップ・データを本機に読み込みます (ロード)。

1. SD カードを本機に挿入します (P.7)。
2. [SYSTEM] ボタンを押します。
SYSTEM 画面が表示されます。
3. カーソル・ボタンで [SD CARD] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SD CARD MENU 画面が表示されます。
4. カーソル・ボタンで [LOAD] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD LOAD <BACKUP ALL> 画面が表示されます。



5. ロードの設定をします。

パラメーター	説明
With User Sample	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
Bank Number	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルを読み込むと、本体内のユーザー・サンプルはすべて消去されます。また、ユーザー・サンプルのサイズによっては、読み込みに 10 分以上かかることがあります。

各種設定をする (SYSTEM)

6. [F5] (LOAD) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

7. カーソル・ボタンで「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

AUTO OFF 機能の設定をする

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます。自動的に電源が切れないようにするには、AUTO OFF 機能を解除してください。

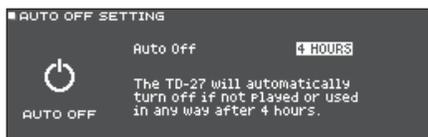
※ 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。

SYSTEM 画面が表示されます。

2. カーソル・ボタンで「AUTO OFF」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

AUTO OFF 画面が表示されます。



3. ダイヤルで、オート・オフ機能の設定をします。

設定値	説明
OFF	電源は自動的に切れません。
4 HOURS	4 時間以内にパッドを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。

メモ

AUTO OFF 機能を「4 HOURS」に設定していると、電源が切れる 30 分前に「WARNING: AUTO OFF, The TD-27 will turn off in 30 min.」のメッセージが表示されます。

4. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

工場出荷時の設定に戻す

本機に記憶されている設定値を、工場出荷時の状態に戻します。これを「ファクトリー・リセット」と呼びます。

注意

この操作をすると、本機にあるデータや設定がすべて失われます。必要なデータや設定は、SD カードに保存してください (P.25)。

1. [SYSTEM] ボタンを押します。

SYSTEM 画面が表示されます。

2. カーソル・ボタンで「FACTORY RESET」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

FACTORY RESET 画面が表示されます。



メモ

すべてのユーザー・サンプルも工場出荷時に戻す場合は、ダイヤルで、「Reset with User Sample」にチェックを入れます。ユーザー・メモリーのすべてのユーザー・サンプルは、工場出荷時のデータに上書きされます。

3. [F5] (FACTORY RESET) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

4. カーソル・ボタンで「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが実行されます。

故障かな?と思ったら

症状	確認事項	対策	ページ
音に関するトラブル			
音が出ない／音が小さい	本機とアンプ内蔵スピーカーなどの外部機器が正しく接続されていますか?	接続を確認してください。	P.6
	本機の音量が下がっていませんか?	[PHONES] または [MASTER] つまみで音量を調節してください。	-
	接続しているアンプ内蔵スピーカーのボリュームが下がっていませんか?	接続しているアンプ内蔵スピーカーの音量を調節してください。	-
	MIX IN 端子に接続したスマートフォンなどのボリュームは下がっていませんか?	[BACKING] つまみ、またはスマートフォン側で調節してください。	-
	MIDI の「Local Control」が「OFF」になっていませんか?	通常は「ON」に設定します。	→ PDF
特定のパッドの音が出ない	各パッドやペダルにケーブルが正しく接続されていますか?	接続を確認してください。	P.6
	インストが「OFF」になっていませんか?	インストを割り当ててください。	P.20
	パッドの音量が下がっていませんか?	パッドの音量を調節してください。	P.20
	「OUTPUT」は正しく設定されていますか?	「OUTPUT」の設定を確認してください。	→ PDF
	ユーザー・サンプルが削除されていませんか?	パッドに割り当てられているユーザー・サンプルを削除すると、音が出なくなります。もう一度ユーザー・サンプルを取り込むか、他のインストを割り当ててください。	P.22
	パッドの「トリガー・タイプ」は正しく設定されていますか?	パッドの「トリガー・タイプ」を設定してください。	→ PDF
	TRIGGER IN 端子／TRIGGER INPUT 端子または DIGITAL TRIGGER IN 端子に、接続ケーブルが正しく接続されていますか?	接続を確認してください。	P.6
TRIGGER IN 端子または TRIGGER INPUT 端子に接続したパッドを叩いても音が出ない／トリガーが反応しない	DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続したパッドを、TRIGGER IN 端子／TRIGGER INPUT 端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER IN 端子／TRIGGER INPUT 端子に接続したパッドの音は出力されません。	DIGITAL TRIGGER IN 端子からパッドの接続ケーブルを抜いてください。	P.7
DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続したパッドを叩いても音が出ない／トリガーが反応しない	トリガー・インプットを正しく設定していますか?	パッドを接続したら、どのトリガー・インプットで鳴らすか設定してください。	P.7
	カーボン製や金属製のスティックを使っていませんか?	木製や樹脂製のスティックをお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。	-
	金属製のブラシを使っていませんか?	ナイロン製のブラシをお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷つけたりすることがあります。	-
SD カードに関するトラブル			
SD カードを挿入しても認識されない／データが見えない	正しく初期化（フォーマット）されていますか?	本機で SD カードをフォーマットしてください。	P.24

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

故障かな?と思ったら

症状	確認事項	対策	ページ
MP3 / WAV ファイルが再生できない	MP3 ファイルのサンプリング周波数、ビット・レート、WAV ファイルのサンプリング周波数、量子化ビット数は本機に対応していますか?	本機に対応した MP3 / WAV ファイルをご使用ください。	P.14
	高いビット・レートの MP3 で再生速度を上げると、再生が間に合わない場合があります。	-	-
A-B リピートの時刻設定が正しくできない	MP3 では A-B リピート区間を正しく再生することができない場合があります。	-	-
オーディオ・ファイルが鳴らない/取り込めない	オーディオ・ファイルの形式は正しいですか?	オーディオ・ファイルの形式、ファイル名、拡張子を確認してください。	P.14 P.22
	オーディオ・ファイルの置き場所は正しいですか?	オーディオ・ファイルの置き場所を確認してください。	P.14
	多数のオーディオ・ファイルをフォルダー内に置いていませんか?	フォルダー内のオーディオ・ファイルは、200 個以下にしてください。	-
USB に関するトラブル			
パソコンと接続できない	USB ケーブルが正しく接続されていますか?	接続を確認してください。	P.6
	USB AUDIO として音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。	パソコンに USB ドライバーをインストールしてください。	P.19
	USB 2.0 対応のケーブルを使用していますか?	USB 3.0 対応のケーブルは使用できません。USB 2.0 対応のケーブルを使用してください。	-
	Driver Mode は正しく設定されていますか?	使いかたに応じて変更してください。	➔ PDF
MIDI に関するトラブル			
音が出ない	MIDI ケーブルが正しく接続されていますか?	接続を確認してください。	P.6
	MIDI チャンネルは合っていますか?	本機と外部 MIDI 機器の MIDI チャンネルを合わせてください。	➔ PDF
	ノート・ナンバーは合っていますか?	パッドの「NOTE NO.」を設定してください。	➔ PDF

お問い合わせの窓口

● 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (弊社規定の休日を除く)

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000” (ゼロ4回)をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

● 最新サポート情報

製品情報、イベント/キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <https://www.roland.com/jp/>

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
	●は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.26)。



警告

付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は、当社製のスタンド (MDS シリーズなど) と組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド (MDS シリーズ) を使用してください。



不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド (MDS シリーズ) を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。



スタンドへ設置するときの注意

取扱説明書の指示どおりに設置してください (MDS シリーズに設置する際は、『TD-27KV セットアップ・ガイド』をご覧ください)。



正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。



小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が悪く飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。



付属品
・蝶ネジ (P.8)

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

使用上のご注意

電源について

- ACアダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。ACアダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリ一部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押ししたり、叩いたりしないでください。
- 本機は、演奏時の打撃音を小さくする設計になっていますが、床や壁を通じての振動は意外によく伝わります。特にヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑が掛からないように注意しましょう。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

外部メモリーの取り扱い

- 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
 - 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

電波に関する注意

- 以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解／改造する
 - 本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
 - 本製品を購入した国以外で使用する
- 本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）や特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
 - 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して、万一、本機が原因と思われる有害な電波干渉の事例が発生した場合には、電波の発射を停止した上で、混信回避のための処置等（たとえば、パーティションの設置など）についてローランドお客様相談センターにご相談ください。
 - その他、発生した問題についてお困りの場合も、ローランドお客様相談センターにご相談ください。
 - ※ ローランドお客様相談センターへの連絡につきましては、取扱説明書などに記載の「お問い合わせの窓口」をご覧ください。
- 認証取得済みの特定無線設備を搭載しています。

知的財産権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。

- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- SDロゴ  および SDHC ロゴ  は SD-3C、LLC の商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム [eParts™] が搭載されています。
- Bluetooth®** のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム (www.t-engine.org) の T-License 2.0 に基づき μ T-Kernel ソースコードを利用しています。
- Roland、BOSS、V-Drums は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。